

1 地域カルテ、現状データ

趣旨	地域の強みや課題、社会資源の需要と供給を洗い出し、支えあいのしくみづくりの基礎資料とすることを目的として、人口をはじめとした基礎的な統計情報や地域の特徴、地域活動情報等をまとめた「地域カルテ」を作成しています。令和2年3月に策定した「中央区保健医療福祉計画2020」の資料編に掲載したものを毎年度更新しています。
掲載情報	(1) 地域の概要 地域の特徴、地域別年齢区分別人口割合、町別年齢区分別人口割合、地域のデータ(人口、世帯、高齢者の状況、障害者の状況、虐待通報情報、組織・活動の状況) (2) 施設マップ 教育関係施設、子ども・子育て支援関係施設、高齢者関係施設、障害者関係施設、医療施設、地域・集会施設、文化施設、区役所・保健所等、防災拠点 (3) 地域資源マップ 町会、自治会(連合町会)、防災区民組織、高齢者地域見守り活動団体、ふれあい福祉委員会、地域サロン
周知方法	・区のホームページに掲載 ・町会・自治会、民生・児童委員、保健医療福祉計画推進委員会委員等へ配布

全域

- 人口、世帯
 - ・人口、世帯数ともに増加しています。世帯構成では夫婦のみの世帯、夫婦と子どもの世帯が増加(参考:令和2年度国勢調査)しており、6~19歳の人口が増加しています。さらに、令和8年には外国人が人口の7.1%を占めています。
- 高齢者の状況
 - ・人口の増加に伴い、高齢者数も増加し、単身高齢者世帯も増加しています。要介護・要支援認定者数、認知症高齢者数も増加しています。
- 障害者の状況
 - ・障害者手帳の所持者数、難病患者数も増加しています。
- 虐待通報状況
 - ・虐待通報件数がすべての地域で大幅に増加しています。特に、児童虐待通報件数は全ての地域で高くなっています。
- 組織・活動の状況
 - ・町会・自治会数は減少傾向で、民生・児童委員の充足率は令和8年度に80%となっています。
 - ・個人ボランティア団体数は、全ての地域で減少していますが、認知症サポーター数、ささえあいサポーター数については、年々増加しています。
 - ・検挙件数は令和5年に上昇に転じており、再犯者率は東京都平均より低い水準ではあるものの、検挙者のうち約2人に1人が再犯者となっています。また、本区の保護司の定員に対する充足率は令和8年に65.0%となっています。

京橋

- 人口
 - ・世帯人員は令和8年度に1.59人で、区全体(1.76人)と比較して低く、単身世帯が多い状況です。
- 組織・活動の状況
 - ・防災区民組織の組織率は98.18%と、最も高くなっています。
 - ・虹のサービスの利用会員、ファミリーサポートの依頼会員が減少する一方、それぞれの協力会員、提供会員は増加しています。

日本橋

- 人口
 - ・世帯人員は1.68人から1.63人へと減少しています。特に「高齢者夫婦世帯」が減少(-57世帯)する一方で、「高齢者単身世帯」が大幅に増加(+283世帯)しています。
- 障害者の状況
 - ・自立支援(精神通院)受給者数は、増加率が50%を超えています。

月島

- 人口
 - ・総人口は約7.8万人から約9.2万人となり、増加数(約1.4万人)は、区全体の増加数の6割以上を占めています。
 - ・1世帯あたりの人数は1.96人と3地域の中で最も高く、子どもを含むファミリー世帯が多い状況です。
 - ・外国人人口は、83.2%増(4,304人→7,887人)と、区内で最も多い状況です。
- 高齢者の状況
 - ・3地域の中で唯一、要支援・要介護の区分全てにおいて人数が増加しています。
- 障害者の状況
 - ・自立支援(精神通院)受給者数は、増加率が50%を超えています。
- 組織・活動の状況
 - ・ファミリーサポートの依頼会員が減少する一方、提供会員が増加しています。

想定される 課題

- 地域コミュニティの希薄化と担い手不足
- 高齢者単身世帯の増加に伴う孤立化の進行
- 虐待、精神保健、認知症等の増加する福祉ニーズへの対応
- 外国人人口増に伴う多文化共生

※特別な記載がない場合は、令和2年度と令和8年度のデータを比較しています。

2 意見交換会

参加者	34名 ・地域活動団体(地域活動拠点利用団体、いきいき地域サロン登録団体) ・相談支援機関等(おとしより相談センター、基幹相談支援センター、精神障害者地域活動支援センター「ポケット中央」、保健所、保健センター、子ども家庭支援センター、スクールソーシャルワーカー、ふくしの総合相談窓口を含む自立支援機関、ケースワーカー、地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーター、民生・児童委員、主任児童委員)
日時/会場	令和8年7月27日(月) 午後2時から午後4時まで 中央区役所8階 大会議室
テーマ	今後の中央区の包括的支援体制を考える
事前アンケート回収数	・地域活動団体:20件 ・相談支援機関等:100件

事前アンケート	地域活動団体	・質問「地域の中の問題・課題」、「その解決策」のどちらも「担い手」に関する項目が最も高く、地域活動の担い手確保についての関心の高さが窺えた。 ・質問「地域の中の問題・課題」では、担い手に続き「交流」「孤独・孤立」に関する項目の割合が高く、質問「解決策」でも「集まりへの参加促進」「見守り活動の活発化」などの割合が高くなっている。 ・質問「地域活動の活発化に必要なこと」では、活動情報の入手しやすさや団体同士や住民との交流機会のニーズが高くなっている。
	相談支援機関	・質問「地域で増えている課題」に対し、区全体では高齢・介護に関する課題が多い、地域によっては生活困窮や子ども・子育てなど、増えている課題に差が見られた。 ・質問「支援・対応における課題」に対し、半数以上が、本人との信頼関係構築や支援の中で自身の業務として対応すべきかの判断を要することに、難しさや負担を感じている。担当する活動領域によっては、行政・専門機関等との連携において難しさや負担を感じている。

		京橋	日本橋	月島	全域
グループワーク	地域の特徴・強み	・商業・歴史・文化の資源 ・水とみどり、公園や図書館 ・多様な人の往来 ・商いを通じたつながり ・交通便利性の高さ ・東京駅・銀座・築地に近地域 ・マンション化による顔の見えにくさ ・新旧住民の関わり方の差	・見守りや支え合いの力 ・活発な町会行事や祭り ・地域で楽しめる機会の多さ ・地域に密着した医療 ・防災意識が高い ・昔からの住民と新しい住民の交流 ・代々にわたるつながり ・下町としての魅力 ・中高生の居場所の少なさ ・広く集まれる場所の少なさ	・地域活動への意欲の高さ ・地域を良くしたい人の多さ ・多様な住宅形態の共存 ・都営住宅の地域力が強い ・下町的な助け合い ・子育て世帯や若い人の増加 ・新しい感覚を持つ住民 ・新旧住民、年代による考え方の差、生活実態の差 ・顔の見えにくさ ・担い手不足	現在、力を入れていること ・早めの相談と早期解決、相談力の向上 ・顔の見える支援、気軽な相談への丁寧なつながり、伴走支援 ・子どもが頼れる地域づくり、子どもの相談力を高める視点 ・高齢者の就労先の確保 ・多様化した・された居場所づくり ・施設・病院等から地域に移行する支援 ・行政・医療・地域の横のつながり
	今後、地域で取り組むこと	・顔の見える関係づくり ・町会活動の見える化 ・まち歩きや防災を通じた交流 ・区の文化・歴史に触れる活動 ・若い世代が参加しやすい工夫 ・地域活動への入口づくり ・人と場所をつなぐマッチング ・地域協議体の活用 ・相談先の周知 ・相談できる場所の拡充 ・マンション単位の集まりの増加	・世代交流の機会づくり ・住民と働く人のつながり ・商店街・企業・学校との連携 ・参加しやすいイベントの拡充 ・誰でも立ち寄れる居場所・休憩スポット ・サードプレイスをつくる ・多様な居場所 ・住民が活躍できる機会の創出 ・地域密着の何でも相談室をつくる ・SNSなどによる情報発信	・声かけ・あいさつからの関わり、見守り ・地域のキーパーソンにつなぐ ・多世代交流の場づくり ・マンション内での交流 ・祭りや防災イベントの活用 ・未就学児、小中高生を活動に巻き込む ・地域活動の広報 ・交流のメリットの発信 ・将来の地域の姿の共有 ・住民のニーズ把握	今後、連携・協働して取り組みたいこと ・関係機関の顔の見える関係づくり・協働 ・関係機関と一緒に動く、課題を共に考える関係性、一体的な継続支援 ・行政・社協・医療機関等との連携 ・定期的な情報共有 ・法律への理解・活用
	望ましい姿	・若い世代の参加、外国人との共存 ・顔の見える関係性（マンションやひとり暮らし含む） ・「ゆるっと、ゆるす、ゆうこう」できる地域（新旧融合、異文化交流、手紙もSNSも活用）	・三世代・四世代が集える下町	・顔の見える関係（みんな知り合い） ・祭りなど多世代が交流できる場を増やす、若年層や中間層を将来へつなげる ・誰もが安心・安全 ・国際交流の充実したまち	目指したい区の方 ・ヒト、モノ、情報と誰もがオープンにつながれる、多様化した居場所がある ・地域力が向上している ・分野、関係機関、年齢など、様々なギャップが解消されている

